

模擬国連への挑戦の道 part2 (Communicative Skills 育成プログラム)

㊦初出場で予選会を突破！！

(これはすごい快挙だと、模擬国連常連校の先生方からもお褒めの言葉をいただきました ˘(o˘o)˘)
11月12日(土)、13日(日)に全日本高校模擬国連大会へ出場した様子を、参加生徒の感想も含めレポートします！

いざ国連大学へ！

国連大学は東京都渋谷区にある国連の自治機関で、緊急性の高い地球規模課題の解決に取り組むため、共同研究、教育、情報の普及、政策提言を行っている場所です。この場所で活動ができるというだけでも、大変貴重な経験です！



集合前、国連大学のまえでパチリ📷



ネームプレートで大使としての自覚が緊張から、笑顔が引きつっています(´艸`)

この会場で行われました。まさに国際会議が開かれる場所って感じです！



㊦ここからは参加した2名の生徒から、準備・本番・感想まで彼らの言葉で書いてもらいます！

論点と担当国

本選の論点は、①多国籍企業における社会保障、②コロナ禍における個人データの扱いの2点でした。稀にみる難題だったようで、各校準備に苦労されたのではないかと思います。

担当国は、予選に引き続き「ナイジェリア」でした。各参加校から希望を出して、抽選によって決まる形式でしたが、幸運なことに、私たちは第一希望が通りました。他校は予選と本選で担当国を変えてきている学校が多かったように思います。

本選への準備はどんなことを行った？

今回の目的は、「多国籍企業宣言」という公式文書に加筆、改定を行い、より国益が保たれるようにしていくという内容でした。そこで、まずは「多国籍企業宣言」を日本語と英語でよく読みこんでいきました。すると、発展途上国への譲歩を示唆する表現や、この宣言の実行力を持たせるための各国の担当窓口(Focal Point)について気づくことができ、その後の自国の戦略につながりました。その後、ナイジェリアの多国籍企業誘致と問題点、個人情報保護の現状と問題点を細かくリサーチしていきました。さらに、コンセンサスを取りやすい国の現状についても調べ、戦略を作り上げていきました。公式文書へ載せる文章案についても、英語の表現に気を付けながら作成しました。

会議の流れ

模擬国連では2、3カ国ずつの公式スピーチを行った後、(厚高は2日目の後半にスピーチをしました。) モデと呼ばれる着席討議か、アンモデと呼ばれる自由に席を移動し協議を重ねる非着席討議を行い、またスピーチに戻る、という流れを繰り返していくのが基本です。そして2日目の最後の会議までに、決議文という会議の結果決まったこと、変わったことをまとめた公式文書を8カ国以上で作成し、提出して、議場全体で投票を行います。さらに、今回はコンセンサス投票という、反対の国が1カ国でもあるとその決議文が通らないというかなり厳しい投票の形式でした。アンモデでは、1体1というよりはグループを形成し話し合うことが多いです。

本番！！

1日目、私たちは、社会保障を企業に義務化させたくないというスタンスを取っている国々とグループを形成しました。そこで協議を重ね、自分たちの国の国益が守られるよう妥協点を探し、ワーキングペーパーと呼ばれる決議文の元となる作業文書に盛り込む内容、文言を確定し、落とし込んでいきました。1日目は社会保障についての文言の作成で終了しました。この時点で、私たちの政策はあまり上手く反映されていなかったため、このグループを離れ、利害の一致しそうな国との新たなグループ形成を考えました。しかし、決議文の作成に必要な国の数を集められそうにはなかったため、このグループで作成した、ワーキングペーパーの改善案にできるだけナイジェリアの国益を反映させ、提案していくことにしました。

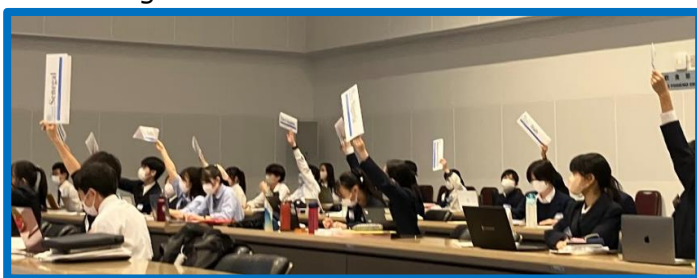
2日目は、私たちはワーキングペーパーの改善案の提示を行っていました。同時に議場では、各グループ(今回は私たちのグループ以外に、中南米諸国のグループ、先進国のグループ、企業に社会保障を義務化させたい国のグループ)のまとめ役、仕切り役を行っていた大使たちがコンバイン(互いのグループの決議文をすり合わせ、1つの決議文を作る)やコンセンサス(ここでは自分のグループの決議文に賛成してもらうことを指す)の為に賛成して貰えるかどうかの交渉を行っていました。中南米諸国のグループとのコンバインに成功したものの、先進国グループとのコンセンサス交渉が上手くいかず、そのまま決議文の提出時間をむかえてしまいました。私たちは、同じグループ内のいくつかの国と、どの国の国益を損なわないものの、大きく前進する訳でもない、最低限の決議文の作成を、決議文を1本でも出すために進めていましたが、スポンサーが集まらず、提出が出来ませんでした。最終的に決議文は2本だけ、両方に反対国がいたため、決議文は一つも出すことができないまま会議が終了しました。その後振り返り、表彰を行い、模擬国連大会が終了しました。



生徒の感想①

模擬国連については未知のことばかりで手探り状態でした。会議の前には、事前に担当国の情報や政策などを書いて提出する書類もあり、議題理解のために資料を読み込んだり、戦略立てのために各国の情報を収集したり、準備にはとても時間がかかりました。私は吹奏楽部にも所属しており、部活や勉強との両立は本当に大変でした。それでも様々な方の応援、サポートのもと、二人で協力して国際的な課題に取り組み、厚木高校で初めて模擬国連に出場することができ、こうした日々は私の人生の中で貴重な大切な思い出になりました。苦しかったこと、楽しかったこと、本当に色々ありましたが、最終的には全てが結集して「模擬国連に取り組んで本当に良かった」と心の底から思います。

国際的な問題を他国の立場で考える経験は、日本のことを改めて知る機会にもなりました。模擬国連は大学でも活動があり、私もまた参加してみたいと思うと同時に、機会があればぜひ多くの方々に模擬国連に challenge していただきたいなと思います。



プラカードを上げて、MOTION(動議)を発動させます。
厚木高校もしっかりプラカードを上げています♪

生徒の感想②

情報を集めることに最も苦戦しました。担当国の会議の論点に関する現時点の状況がわからないことや、金額や人数などの具体的な数値が出てこないことがしばしばありました。資料も公的文書となると英語で書かれている場合もあり、二人がかりで調べていてもとても時間がかかりました。また、今回スピーチを担当させていただいたので、英語の発音やアクセント、文内での単語の強調に苦戦しました。普段は気づくことができていなかった癖に気づくことができ、良いスピーキングの練習になりました。大変だったことや悔しいこと、色々ありましたが、この大会に参加できたことが、何より良かったことだと思っていますし、新しいことに挑戦できたとても貴重な経験でした。

模擬国連のような大会への参加経験は全くなかったため、不安な事も上手くいかないことも少なくはありませんでしたが、新たな知識・視点・世界を知ることができ、成長につながる思い出深い四ヶ月でした。世界が、日本が、私たちが抱える問題について、また違った視点から学びを深められたことは頭の固い私にとって、とても良い経験でした。模擬国連で得た自信を、また新たな挑戦につなげていきたいです。



練習を重ねたスピーチ。とても美しい英語でできました！

最後に・・・(担当教員より)

模擬国連は、世界が抱える問題を知り、当事者意識を持って考えることのできるまたとない機会だと思います。国際問題を多角的にとらえ、解決策を他者と協力して導き出していくこの活動は、今後グローバル社会で求められる素質そのものを鍛えられると感じました。

担当教員の自分を含め、手探りの初出場でしたが、今回参加した2名の生徒は、私が求めるレベルよりもずっと詳しいリサーチと準備を行い、本番では意見を主張しつつも、他の学生の意見にもしっかりと耳を傾けることのできる2人でした。残念ながら、厚木高校はニューヨークで行われる世界大会への切符（入賞）を手に入れることはできませんでした。しかし、彼らが厚高の模擬国連への第一歩を刻んでくれたことを誇りに思います。そして、その一歩を後輩が引き継いでくれることを期待したいと思います。

全日本高校模擬国連大会は来年ですが、すでに「模擬国連会議」をはじめとした、次なる模擬国連の活動が動き出しています。これを読んでくれている厚高在校生、厚高志願者の皆さん、ぜひ模擬国連に興味を持ってください。そして、一緒にチャレンジしましょう！！



よく頑張ったね(*^-^*) 最後にパチリ📷